

かほく

ワークシート

問題

① 昨年、ノーベル化学賞を受賞した吉野彰さんは、何を開発したのでしょうか。

()

② 吉野さんの講演だけでなく、近頃ニュースの言葉として使われる「EV」や「AI」は何のことでしょうか。それぞれ日本語に当てはまる言葉に直しましょう。

EV ()

AI ()

(小学校高学年、中学校／朝の会)

持続社会 実現できる

吉野さんあすノーベル賞授賞式



記者会見で笑顔を見せる旭化成の吉野名譽フェロロイオン電池、ストックホルム

【ストックホルム共同】リチウムイオン電池の開発でノーベル化学賞に決まった旭化成の吉野彰名譽フェロロイオン電池が8日、ストックホルム大の講堂で受賞記念講演をした。環境や経済、便利な生活のバランスがとれた未来の持続可能な社会づくりに「リチウムイオン電池が中心的な役割を果たす」と話した。

10日夕（日本時間11日未明）には一連の行事のクライマックスとなる授賞式と晩餐会に臨む。

8日の講演タイトルは「リチウムイオン電池の展望」

リチウムイオン電池の展望講演

電池の開発経緯とこれから」。冒頭「大企業研究者の私が受賞したことには日本中が大変興奮したと切り出した。動画を見せ、蓄電池を積んだ電気自動車（EV）が普及した未来社会の構想を紹介。人工知能（AI）による自動運転を組み合わせた事故や渋滞がなくなる。車をみんなが共有すれば手近な空車を呼んで使うことができ、個人の費用負担も抑えられるとした。

太陽光や風力などによる電気を街のステーションでEVに供給し、発電が不安定な時はEVから家庭などに電気を供給することも可能と説明。「持続可能な社会は近い将来、実現できる」と展望した。

講演では、小学校のころ、英国の科学者ファラデーの著書「ロウソクの科学」を読み、化学に興味を持ったエピソードを紹介。京都大を経て旭化成に入社からは、白川英樹筑波大名譽教授（83）が発見した電気を流せるプラスチックを使って電池の開発を開始し、最後は負極に炭素材料を使って基本構成を決めたことや、実験で試作品を破壊しても炎上せず、安全で実用化が可能だと確信したとの回想も話した。

（2019年12月10日河北新報朝刊）

吉野さんが開発した電池は現在の私たちの身近な生活に役立っているだけでなく、未来の社会に向けてもまだまだ大きな可能性を秘めていることに、改めて驚かされます。小学校の頃に出会った本が吉野さんに大きな影響を与えたというのも、面白いエピソードです。人生を変えるすてきな読書の出会いを、私たちもしてみたいものですね。

(日本新聞協会NIEアドバイザー・宮城県図書館主幹坂本謙)

出題者から

河北新報の記事を題材に、学校や家庭で学ぶためのワークシートです。宮城県内の小中高校の教員や教員経験者が出題します。

※「かほくワークシート」は「河北新報オンラインニュース」からダウンロードし、A4判に印刷できます。模範解答も載っています。

2020年1月12日かほくワークシート模範解答

- ① 昨年、ノーベル化学賞を受賞した吉野彰さんは、何を開発したのでしょうか。
(リチウムイオン電池)
- ② 吉野さんの講演だけでなく、近頃ニュースの言葉として使われる「EV」や「AI」は何のことでしょうか。それぞれ日本語に当てはまる言葉に直しましょう。
EV (電気自動車)
AI (人工知能)